

教 科	科 目	対象学年学科	単位数	教科書	使用教材
家庭	家庭基礎	1 年 普通科 1 年 国際科	2 単位	家庭基礎 自立・共生・創造 (東京書籍)	資料集 最新生活ハンドブック資料& 成分表(第一学習社)

到達目標	人の一生と家族・家庭及び福祉、衣食住、消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、家庭や地域の生活課題を主体的に解決するとともに、各自の生活の充実向上を図る能力と実践的な態度を育てる。
------	---

評価の観点	A 関心・意欲・態度	B 思考・判断・表現	C 技能	D 知識・理解
	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活等について関心を持ち、その充実向上をめざして意欲的に取り組むとともに、実践的な態度を身につけている。	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活等について見直し、課題を見つけ、その解決をめざして思考を深め、適切に判断して工夫・創造・表現する能力を身につけている。	人の一生と家族・福祉、衣食住、消費生活等に関する基礎的・基本的な技術を身につけている。	人の一生と家族・福祉、衣食住消費生活等に関する基礎的・基本的な知識を身につけている。

学習の評価	・定期考査。 ・ワークシートや作品、レポートなど課題の提出物が期日を守って提出されているか・内容は充実しているか。 ・実験・実習等を含め、授業に主体的・積極的に参加しているか。 ・ホームプロジェクトの提出とその達成度。 以上の事柄を多角的・総合的に判断し、評価する。
-------	--

単元	学習内容	到達目標
家族・社会との共生 1 章 自分らしい人生をつくる	1.生涯発達の視点 2.青年期の課題、目標を持って生きる 3.人生をつくる 4.家族・家庭を見つめる 5.これからの家庭生活と社会	・家族を単位としたライフステージがあり生活課題があることを理解し、自分の人生について考える。 ・多様化しつつある現代の家族の特徴、家族の機能の変化、民法について理解する。 ・家事分担を通して、多様化する家族像・自立・労働・などについて理解する。
2 章 子どもと共に育つ	1.子どもの育つ力を知る 2.親として共に育つ 3.子どもとの触れ合いから学ぶ(乳児ふれあい体験、保育見学) 4.これからの保育環境	・乳幼児の発達の特徴を、家庭や環境との関わりをとおして理解し、子どもの成長に関わる立場である親や家族の役割と責任を考える。 ・赤ちゃんふれあい体験、保育見学を通して、乳幼児への理解を深める。 ・少子社会における子育て支援・児童福祉の意義について理解する。
3 章 高齢社会を生きる	1.高齢期を理解する 2.高齢者の心身の特徴 3.これからの高齢社会	・高齢期の心身の変化や特徴について知り、高齢社会の現状と課題を理解する。 ・高齢者に関する福祉について学び、高齢者を支える制度と課題について考える。
4 章 共に生き、共に支える	1.私たちの生活と福祉 2.社会保障の考え方 3.共に生きる	・ともに生きるノーマライゼーションの考え方を基礎に、高齢者や障害者への理解を深め、社会の一員としてどのようにかわっていかねばよいか考える。
生活の自立 5 章 食生活をつくる	1.食生活の課題について考える 2.食事と栄養・食品 3.食生活の安全と衛生 4.生涯の健康を見通した食事計画 5.調理の基礎 調理実習 6.これからの食生活	・自分の食生活の現状を把握し、食と健康のかかわりについて考える。 ・栄養素の種類と働き、その食品との関連を理解する。食の安全について理解する。 ・班員で協力して、安全かつ衛生的に調理実習を行うことができる。 ・家族の日常の食生活に必要な食物に関する基礎的知識や技術を習得させ、食生活を計画的かつ合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。
6 章 衣生活をつくる	1.被服の役割を考える 2.被服と表示、材料、性能 3.被服を管理する 被服製作 4.これからの衣生活 5.布を用いた生活の知恵	・衣服の起源、衣文化、衣服のはたらき、被服材料の特徴について理解する。 ・家庭経営の立場から家族の日常の衣生活に必要な被服に関する基礎的知識や技術を習得し、衣生活を計画的・合理的に営み、その充実向上を図る能力を伸長する。
7 章 住環境をつくる	1.住生活について考える 2.住生活の計画と選択 3.これからの住生活	・自分の日常生活を振り返り、生活行為と生活時間のつながりや住まいの機能について理解する。 ・自分や家族のライフステージに応じた、快適な住生活について考える。 ・身近な地域の住環境について分析し、「住みよい環境」のためには何が必要か考える。
8 章 経済生活を営む	1.職業生活を設計する 2.国民経済・国際経済と家庭の経済生活 3.現代の消費社会、契約トラブル 4.これからの消費生活と環境	・契約や消費者信用、多重債務問題、消費者基本法などの消費者保護の仕組みについて理解し、消費者としての適切な判断ができるようにする。 ・多様化する現代の消費生活の課題について認識し、ひとりの消費者として、主体的に考え行動することの必要性について理解できる。 ・消費生活と環境の関わりについて関心を抱き、環境負荷の少ない生活の在り方について認識できる。
生活の創造 9 章 生活を設計する		・ライフプランガイドを活用して自分の生活を見直し、生活設計ができる。
ホームプロジェクトの実践 学校家庭クラブについて		・ホームプロジェクトを計画に基づき、自主的に解決を目指して実践することができる。 ・学校家庭クラブ活動について、日ごろの学びも含め、積極的に実践することができる。 ・近隣の園児へ手作りおもちゃのプレゼント。近隣駅待合室の手作り座布団の製作。